

僕は、周りを山に囲まれた花坂という地域に住んでいます。花坂は世界遺産である高野山のふもとにあり、かつては高野山に参拝する人々で賑わう宿場町でした。

名物はあっさりとしたあんこを薄めの餅で包み、香ばしく焼いた「やきもち」です。昔の参拝客はとても長い道のりを歩きました。そんな参拝客を癒したのが、やきもちであり、ここ花坂だったのです。

しかし車社会になり、参拝時に花坂に泊まる人はいなくなりました。家からコンビニまで車で三十分、学校まではバスと徒歩で四十五分も掛かるので、いつも不便に感じています。仕事も遊ぶところもない村では若者は都会に出て人口も減り、過疎化、そして少子高齢化が進んでいます。

しかし、僕は花坂が好きです。勿論生まれ育った所だから住み慣れているというものもありますが、花坂は自然が美しく、伝統のある村だからです。

春の爽やかな新緑、夏の夕立、秋に金色に輝く稲穂、冬の雪景色など、四季折々の風景は最高です。

花坂の伝統文化には、毎年八月十五日に開かれる村の小さな夏祭りで奉納される「鬼もみ」があります。本来、悪と捉えられる鬼ですが、花坂の鬼は違います。鬼を榊でもみ、お祓いをし、五穀豊穰等を祈るのです。僕は鬼もみをモチーフとした伝統的な太鼓グループ、花坂鬼もみ太鼓保存会というグループに所属しています。力強く躍動感のある曲が持ち味で、毎年夏祭りだけでなく、県内の様々なイベントに出演して鬼もみ太鼓を広めています。伝統を後世に伝えねばならない、という思いで僕は太鼓を叩いています。

自然、文化、美しいこのふるさと、このまま過疎化・少子高齢化が進むと十年後どうなっているかわかりません。伝統あるこの村をどう守っていくか、それは僕たちの世代が直面している大きな課題です。

今、テレビでは北朝鮮のミサイル発射などの国の争いに始まり、国内では会社の偽装、殺人、いじめなど暗いニュースが並びます。それらを観るたび僕は心が痛みます。国境のない現代社会、競争社会は人の心を疲れさせているのではないのでしょうか。僕は将来、この地域の素晴らしさを、インターネットを通じて発信したいと考えています。幸いにも、高野山には世界中から観光客が訪れます。まず、花坂を知り、宿泊体験や農業体験をしてもらえれば、心の中が癒されていくのを感じるはずです。人が集まれば仕事は生まれます。かつて参拝客の身体を癒した地を、次は心の癒しの地として、再び活気ある村にしていきたいのです。

この村が元気になれば、その力は周囲へと広がっていくはず。花坂から、日本全体に、明るいニュースを発信していきたいと思えます。

僕は、花坂が大好きです。いつまでも村の存続を願います。いつか大変な状況になっても、必ず僕が、僕たちが、この美しい村を守ります。